

No. 92
 公民館だより
 平成6年4月
 宮津市字由良
 由良の里センター内
 由良地区公民館

壺中天有り

館長 小室 哲 寛

死中活有り。苦中楽有り。
 忙中閑有り。壺中天有り。
 意中人有り。腹中書有り。

これは安岡正篤先生の有名な言葉であるが、まことに蘊蓄の深い語であり、人間の生きる上で心得ておくべき優れた数々の訓の中の一つである。

前段はご存知の通りであるが、「意中人有り」というのは自分が尊敬し師と仰ぐ人を常に持つことであり「腹中書有り」は孔孟老荘等の書即ち古来の教養の書を常に読み、智識を自分のも

のとして腹に持っているという意であるが、更に「壺中天有り」は趣があり、私の好きな言葉である。

少し註釈を加えると、これは中国の「後漢書」の方術の部に出ている費長房という人物の伝記に基づいたものである。それには費長房は汝南という町の役人であったが、その町で軒先に小さな壺をつりさげて薬を売っている老翁と親しくなった。ある日のこと老翁（通称壺公）から「すばらしい処に案内しますから、この壺の中にはいりな

い」と誘われた。「こんな小さな壺に……」と思ったが、壺公の言う通りになると難なくするとはいることが出来た。はいつてみて驚いたことに、壺の中は広い仙境であった。彼はここで種々の仙術の修行を積み、再び現実の世界にもどって来る事が出来たというものである。

そこで「壺中天有り」とはこの壺の中の仙境のように、世俗とは別の天地を各自が持ちたいものだという意である。

この壺中は仙術や禅の修行をする悟りの場であったが、更に解釈を拓げていくと、ここは人間が自然の風流に親しむ場であり、そこでは自分自身が次第に見えてきたり、自分以外のものにも心が及び、それにより生き方に心の余裕が生じるのである。例えば、人間の器量は心の余裕から生れると言われている。人間の器量が大きいい人はど小理屈や功利意識がぬけて余裕ある人柄となるのである。その余裕

を養うものは、古来の中国でも日本でも自然や風流を重んずる心であると言われている。

そこで私達の別天地とは、風流を重んじ、大自然に従った精神的境地を、自ら自己の心の中に築くものであり、それにより自らの力で余裕とゆとりを創り出すものである。

つまりは現在の多忙な日常の世俗の中にあつて、私達にとつて大切な浩然の気を養い、自身の趣味や芸術や風流を愛で、これに身も心も委ねるような時間と空間の境地を自己の中につくり出すことにより、真の心の余裕を培い、ゆとりある人間として心豊かに生きていけるのではないかと思われるのである。

この各自のつくり出す境地は人それぞれに異なっているものであるが、私は、より多くの方々、みんなそれぞれ精一杯に、素晴らしい「壺中天」を持たれんことを希っているものである。

行事報告

主事 山下清一

●フィットネスクラブ交流大会

誰でも気軽に楽しめるやさしいスポーツとして、普及しつつある「ソフトバレーボール・グランドゴルフ・綱引き」等、フィットネスクラブ交流大会が、十二月五日(日)、市民体育館及び屋外特設グラウンドで、市内から男女五五クラブチーム、三九五名が参加し盛大に開催されました。

- ・ジュニア女子の部
優勝 クッキーモンターズ
- ・一般男子の部
優勝 上宮津チーム

(上宮津小学校)

- ※ 由良チームは、決勝トーナメント戦まで勝登りしましたが、惜しくも四位。

- ・男子混合の部
優勝 上宮津Aチーム
- ※ 上宮津チームが、全種目を制覇しました。

- ソフトバレーボール大会成績
- ・男子の部
一位 クマとタヌキ(浜町)
- ※ 由良A 二位
- ・女子一部
一位 楽天ウィナーズ(万町)
- ※ 由良A 二位

- 綱引き大会成績(優勝のみ)
- ・ジュニア男子の部
優勝 パニーズ
- (上宮津小学校)
- ・女子二部
一位 楽天チアフル(宮村)

- ・ミックスの部
一位 (財)ソフトバレークラブB(金屋谷)

- グラウンドゴルフ交流大会
一位 須津クラブ(須津)
- ※ 由良クラブ 六位

●晴れやかに成人式
一月十五日午前十時、宮津会館では、晴れ着や真新しいスーツ姿の明るく初々しい若者、三百九人が出席し、盛大な記念式典が催されました。

徳田敏夫市長が「みなさんの若い力・故郷への熱い思いを、これからの宮津の発展に生かしてほしい」と励ましました。

新成人を代表して亀井亜希子さんが「自分なりの考えと責任を持って生まれ育った町を誇れる町にしたい」と決意の言葉を述べました。会場では小中学・高校時代の友人に久しぶりに再会し、旧交を温め楽しく語り合う光景が見られました。

成人を迎えられた方々

- 岡本 亘・才本 晃・田村 高広
 - 濱田 宏信・前畑 篤史・森田 美加
 - 小田原千秋・土岐 万里・森野 陽子
 - 山田 清美・川端 進二・山本 隆教
 - 枝川こずえ・大石 佳子・北地 恵美
 - 小松 利恵・中西 康英・田中 昭子
 - 中西 陽子・中西 文・吉田 有紀
 - 山下 剛敏・山田 真也・上田このみ
 - 野村 和之・栢田 妹子・山下 靖雄
- (以上二十七名)

●同和学習会(一月十六日)

同和学習会も、地区の皆様のご理解とご協力、解決に対する努力と関心の高まるなかで、八回を迎えることが出来ました。今年も、「差別をなくすためのとりくみ」を主テーマに学習を重ねました。

同和問題を正しく理解し、早期の解決を目指し、一人ひとりの勇気ある行動が必要との、小室館長の基調講話に続き、啓発映画「花咲く日」を鑑賞しました。映画では、ヒロイン真理の部

落出身であるがための、人知れぬ苦しみと悩み、勇気ある告白、力強く受けとめ差別に立ち向う悟郎の行動力、説得力、二人の直向な努力に対する家族の目覚め、勇気ある温かい理解と行動に感動しました。

分散会では、映画の感想を中心に、差別について、結婚について活発な意見が交されました。

私達の心の中にある差別心や同和問題の正しい理解の不足による偏見についての反省等、熱心な発言が続きました。

結婚問題に自分はどう取組めるのか、正しく対応出来るのか、更に自分一人では解決出来ない大きな壁を皆で乗り越えるための、今後の学習の必要性を痛感した学習会でした。

(参加者三十八名)

●第十四回 四部対抗バレー

ボール大会 (二月六日)

第十四回四部対抗バレーボール大会が由良小体育館で開催さ

れ、男女九十六名の選手が、コート狭しと熱戦を展開しました。

各部とも選手層が若返り、攻撃、防御力が一段と向上し、女子の部でも目を見張るような、ブロックプレーに観衆をうならせ、熱球が飛び交いました。

会場は終日拍手と声援のうずみに包まれ汗と笑顔の意義ある大会となりました。

女子の部では、三部チームが日ごろの練習と、チームワークの良さを発揮し、優勝を飾り、男子の部は、二部チームが若い力を結集し、優勝。

○女子の部

	一	二	三	四	順位
1		○●●	●●●	○●●	2
2	●●●		●●●	○●●	3
3	○●●	○●●		○●●	1
4	●●●	●●●	●●●		4

○男子の部

	一	二	三	四	順位
1		○●●	●●●	○●●	3
2	●●●		○●●	○●●	1
3	○●●	●●●		○●●	2
4	●●●	●●●	●●●		4

●四部対抗囲碁大会(二月六日)

由良の里センター

各部選手五名による五対局の勝数により、覇を争いました。

今年は、二部チームの外は生憎選手が揃わず、変則的な対戦となりましたが、選手は名手、迷手を連発し、会場は熱気に溢れました。

強豪を揃え選手層の厚い宮本チームが他を圧し覇権を握りました。囲碁同好会の皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

●自治学級(二月十三日)

由良の里センター

今年も、中西、山下、両市議をお招きし、地区公民館主催による自治学級が、由良の里センターで開催されました。

宮津市政全体の重点施策についてを山下議員から、又由良地区施策、自治連事業活動を中心に中西議員から、熱気溢れる講話に続き、参加者による活発な意見、前向きな質疑が交されま

した。

過疎と村おこし、老人対策、汚水処理と下水道建設の促進について、地区民の総意としての要望を結集すべき機運が一層高まって来たことを強く感じました。(参加者三十五名)

●生涯学習講演会

二月二十七日、由良の里センターにおいて、舞鶴市教育委員会、波多野恵子先生をお招きし、婦人会との共催による講演会を開催しました。

「女性の生き方」をテーマに、目的意識を持ち、苦しみにも耐え、楽しみながら成功の喜びを目指し頑張る仕事に対する努力の姿勢。また、日本女性の床しさ、女性としての優しさ、思い遣る心の大切さを今日、耳あたらしく聴き、しめくよりの全員合唱が大好評でした。

(聴講者約七十名)

平成5年度

由良地区公民館自治学級

日時 平成六年二月十三日

(日) 十三時〇〇分

から十六時三〇分

場所 由良の里センター

(大会議室)

課題 宮津市政と地域作り

助言者 市会議員

中西 孫兵衛

市会議員

山下 伊左衛門

公民館長 小室哲寛

司会 公民館主事 山下清一

出席者数 男 二十二名

女 十二名

次第

一、公民館長挨拶 小室哲寛

二、市政報告

山下伊左衛門議員

三、地区事業報告

地区連合会長

中西孫兵衛議員

四、話し合い(意見交換)

開会あいさつ

公民館長 小室 哲寛

○自治学級は、自治意識を高めるための講座であり、学習の場でもあり又話し合いの中で身近な問題を知り合う生涯学習の一環として取り組まれてきたものであります。

自治意識を高めると共に、市政全般のこと、地区全般のことを知っていく中で、由良地区に住みやすい地区、町にしていくため、皆様方の色々な意見を出し合い、町づくりにつなげていくことが最も大切な事と考えています。

貴重な意見を出し合い、由良地区を良くしていくという観点から発想・構想・意見を述べていただき、これを基に公民館活動の取組みとして今後の話し

や活動の発展につながるよう進めていきたいと思えます。

市政報告要旨

市会議員 山下伊左衛門

○この一年を振り返ると細川連立内閣の誕生、長雨、冷夏の年でありウルグアイラウンド(多国間貿易交渉)の交渉の中で米の輸入の自由化(部分開放)が提起されたまた景気の低迷の年もあり、激動の年であった。

宮津市は総合計画に基づく事業の展開がなされていくが、平安建都二〇〇〇年、宮津市政四〇周年を迎え、記念事業として四月から一年間色々なイベント事業が展開され、自然と文化を生かした海園都市宮津を内外にアピールして宮津市を知ってもらう年である。

○宮津市が低迷から抜け出すには、京阪神と近づくための道路整備が重要である。府北部の大動脈となる京都縦貫自動車道路の綾部宮津道路が昨年五月に起

工し、建設工事が本格化され、

(綾部宮津道路は綾部市七百石

町から宮津市今福を結ぶ二五・

一キロ。平成二年度に着手し、

事業費一十億円を投じて二一世

紀初頭までに暫定二車線、三カ

所にジャンクション・インター

チェンジのある高速道路を開通

させる。綾部―舞鶴・大江間一

二・九キロは九〇%が着工。)

宮津インターのアクセス道路整

備に伴う京街道地区の立ち退き

が進められ、平成一三年度には

完成し京都まで一時間三〇分で

結ばれるのではないか。

京都からの鉄道の電化・高速

化を図るため、京都から園部ま

では電化されているが、JR山

陰本線の園部・福知山間(五四・

三キロ)、KTR宮福線の福知

山・橋立間(三四・八キロ)が

昨年七月に鉄道電化・高速化事

業が起工され、平成八年の春に

は、京都から橋立間を一時間三

〇〇分で結ばれる見込であり、

交通体系が整うと、京阪神

から多くの客を持って来る事ができるので、大きな期待がかかる。

○宮津市活性化のための丹後リゾート構想についてですが、新浜沖埋立地五二、〇〇〇平方メートルの一部は現在市民体育館が建っているが、その横を阪急電鉄に売却し、阪急資本を投入し、平成七年度にショッピングセンター丹後マートを建てる。六年度には、この事業の動きがでてくるでしょうし、近い将来丹後パザール、一〇〇メートルの展望塔等、核になる施設整備が計画されている。宮津会館横の島崎グラウンドに、ゲートボール場二面を設け市民が集う憩いの施設として整備される。

完成までには間に合わないこととなった。経済的な効果は期待できる。一、〇〇〇名程度が収容できるコンベンションホールでの、京阪神の労働組合の大会、経済界の集まり等が開催されれば、多くの人が集まり宮津の活性化が図れる。

○市の活性化に続いて、全国的な問題であり、宮津市にとって高齢者対策は重要な課題である。宮津市老人保健福祉計画が委員によって策定中であり、高齢化社会に向けて、保健、医療、福祉サービスの指針が示される。福祉事務所を部に昇格させ福祉対策をより高めて、児童・高齢者対策が進められていく。

○生活環境整備のための施設として、ごみ焼却場が改築されたが、更に一〇億九千万円をかけた粗大ごみ処理施設を整備して、資源の再利用とごみの減量化を図るために、プラスチック、ビニール、発泡スチロールは事前選別、またアルミ、鉄を自動選

別。あと切断、破砕できる施設で処理し、利用出来る資源を選別し、利用できない物は埋立てを行う方式に改め、埋立て処理の縮小、減量化が図られる。

○宮津湾流域下水道は、宮津・岩滝・野田川・加悦の広域にわたり整備が行われ、宮津市内の中心部の一部は本管と繋がりに一部地区での供用が開始され、宮津市の観光都市としてのイメージアップと市民生活環境の向上が図られる。日置、表栗田、由良地区は流域下水道と繋がらないので、それぞれの地区で下水道施設整備が考えられている。

○定住条件（環境）の整備として、東波路地区の市営住宅は鉄筋コンクリート造り三階建一棟一二戸（海への眺望を配慮した設計。和室二間、洋室一間とダイニングキッチンにバス、トイレ、ベランダ付きの3DKタイプ。事業費一億八千五百万円）府営住宅は四階建三二戸、いずれも3DKのものが建設されて

いるが、由良地区でも考えていかなければならない。

○宮津湾沿岸の景観整備を図るため、文珠地区に駐車場や多目的公園が近く整備される。（パークの埋立ては宮津市、護岸工事は府が担当し、天橋立が望める文殊の阿蘇海約二・一ヘクタールを埋立て、約二百台収容の駐車場と緑地を整備、緑地の中にはテニスコートなどのスポーツゾーンを設け、海辺は階段状の親水性護岸にし憩いの場とする。）

○大江山は、スキー場だけでなく、ドンキホーテの里作りでキャンプ場を整備し、屋外活動の拠点作りや歴史の里作りとしての歴史の館整備がふるさと創生事業の一環として取り組まれている。

地区事業報告

市議会議員・自治連合会長

中西 孫兵衛

○石浦地区の安寿の里もみじ公園は、昨年四月にオーブンし非

常に好評であり、由良地区以外
の多くの人々が利用している。
岸田六郎氏が宮津市へ土地を寄
付した趣旨は、高齢化が進んで
いる現在、由良地区にも何か社
会福祉施設を整備するための用
地ということに寄付されたもの
である。公園の中間に用地が確
保(福祉ゾーン)されているの
で、将来福祉施設が建設される
予定であり、この公園には二億
一千万円の整備費が掛かっている。
もみじ四〇〇本、あじさい
一、六〇〇本、ミツバツツジ三、
〇〇〇本等多くの樹木が植栽さ
れているが、ポランティアの多
くの人達も四回程植栽に参加し
た。今年度中に二、〇〇〇万円
の予算で駐車等がある広域広場
に、安寿と厨子王の像が建立さ
れる。他の用地買収経費として
四、一〇〇万円掛かっているが、
由良地区にも新たな名所が出来
上がった。

○昨年八月の夏休みに、小学校
生徒を中心にした使節団が山形
県鶴岡市庄内由良との交流をは
かった。庄内由良は由良と地形
が大変よく似ていて、海水浴場
や小学校の形まで似ている所
がある。遠く大和の時代(考古学
上の古墳時代)、蜂子皇子が丹
後の由良から乗船し、いまの山
形県鶴岡市庄内地方に上陸、そ
の地を由良と名付けたという伝
説からつながりができ交流がは
じまった。

昭和五四年に庄内由良の佐藤
さんが由良公民館を訪れ、由良
公民館も歴史を探る会が中心と
なり庄内由良を訪れ、昭和六〇
年一月一九日に丹後の由良・
庄内の由良友好浜の宣言の協定
を自治会同士が結び文化教育の
交流を緊密にすることを誓った。
平成四年一月に庄内由良小学
校生徒四人を含む八名が初めて
交流のため丹後由良を訪れ、平
成五年夏に由良小学校生徒他一
九名が庄内由良を訪問し、大変
な歓迎を受けた。小学生も現在
文通をしながら交流を続けてい

る。これからも更に交流を深め
ていきたい。これからは一般の
人の参加を含めた人選を考えて
いきたい。今回の交流は、公民
館長が都合で参加できなかった
ので、自治会が主体となって交
流を図った。

○由良海岸の保全整備は、観光
が主体の由良地区にとっては、
大きな問題である。

・砂浜の上の最初の堤防は、昭
和三四年に同志社の下まで完成
したが、その後砂浜の侵食が激
しくなったので、昭和五一年
(一九七六年)から一〇年かけ
て現在ある離岸堤(砂妨堤)が
設けられたが(海岸から一五〇
メートル沖合に、長さ二二〇メー
トルの離岸堤を七基)、離岸堤
が海上に突きでているので、観
光地としては、せつかくの海岸
美がそこなわれるので、現在の
位置から更に五〇メートル沖合
に沈下式の海底礁を設ける。水
面から二メートル沈んだ所に海
底礁を設け、一基(長さ二〇〇

メートル、幅六〇メートル)に
三年間を要し、水中での工事で
あるのでなかなか進まない。海
岸保全工事の技術も進んできた
が、今回行われる工法での砂浜
の侵食に対する効果については
わからない。四基設置される一
基ぐらい海面上に出してもらえ
ないかどうか要望している。

・護岸の上から砂浜へ降りやす
いように階段を緩やかにするよ
う整備をしてもらい、又護岸上
の通路の舗装を行っているが、
いずれは協まで整備されていく。

・脇自治会が宮川から東へ二五
〇メートルまでの間を京都府に
貸与し、観光の拠点としての公
園整備がなされているが、最初
に作ったトイレが老朽化したの
で、昨年から水洗式のトイレの
工事にかかっていたが、春過ぎ
から工事が中断しいっこうに進
まなかったのは、隣接地の別荘
所有者から改築についての異議
の申し出があり遅延したもので
あり、自治会も中に入り建築の

同意をとりつけているがまだ進展がない。土木事務所としては、工事を遅らせるわけにはいかなないので、現在工事が進められている。

○国道舗装整備は、三年度・四年度にかけて行う予定であったが、途中で止まっている。舗装工事を行うには側溝を入れて施工しなければならぬので、当初予算より工事費が膨らんだため予算が足りなくなったので由良の里センターの下で止まっているが、今年度中には四方医院までの実施は困難な見通しである。

話し合い (意見交換)

Q 国道側の側溝は、生活用水等の排水溝にならないのか。

A (中西議員) 排水溝は、脇一本、宮本一本、浜野路二本が海岸へ流すようになっていて、国道の側溝は道路の水を排水するためだけのものである。

Q 下水が浜に流れているのは、

観光面からも環境面からも悪く何かと改善を行うべきだ。

A (中西議員) 浜野路と脇の方に大きな貯水槽を設けて、浄化して流す方法が少なく、大きな問題であり、早々に解決できないが、国道の側溝の排水の問題も含めて由良地区全体の問題として考えていかなければならない。

Q 由良地区の地形上、排水の問題はなかなか困難な問題であり、これまで何回も意見が出されている。

A (山下議員) 日置、表栗田、由良地区は宮津湾沿岸流域下水道の地域には入っていない。由良地区は由良だけの下水道終末処理施設を作らなければならぬが、農水・建設・厚生省の補助事業があり、上下水道部とも色々話しているが、日置地区は府立大規模公園の計画、リゾートマンションが建っているの、日置地区からまず処理施設の整備が考えられ、それから由良地

区が考えられてくると思うが、流域下水道はポンプアップして下水を流しているの、地形的な問題はクリアされるが、下水道施設を建設するには、受益者負担金や使用料金が必要となり、地元での真剣な議論が必要であると思う。建設費の全てが補助金でできるものではない。

議会でも受益者負担金の問題については議論されてきたが、下水道施設を利用する人は、所有している土地(宅地等)の面積で受益者負担金を一平方メートル当り四〇〇円負担しなければならぬ、五畝(一五〇坪)とすると約二〇万円負担しなければならぬ。支払は三年間の分割納付となっている。由良地区の下水道施設を補助制度で建設するにしても、受益者負担金と、水道使用量一〇立方メートルまでは、九〇〇円の下水道使用料金が必要となる。由良地区の中で色々議論を行い、考え方を纏めていけば、市に対し、実現

に向けての取組みが出来る。

A (司会者) 今から、住民運動の中で一〇年一五年先を見据えた運動や話し合いを行い、由良地区全体の心を一つに纏めていくような取組みが必要である。

A (中西議員) 受益者負担金以外にも、下水道本管につなぐ工事費・トイレの改修費等の個人の工事費が余分に五〇万円程度必要である。

A (山下議員) 下水道料金は、水道使用量計測メーターでの使用量により計算され請求される。受益者負担金は建坪以外のつづきの宅地についても積算面積に入る。下水道施設を利用するには、受益者負担金、下水道使用料、水洗トイレの工事費等の様々な経費負担が必要となるので、色々勉強を重ねて十分な理解の上で取り組んでいかなければならない。

Q 老友会がゲートボール場として使用している広場付近に公衆便所がないので、個人的な交

渉で借りている便所を老友会の経費負担で維持管理しているが、浜野路地区にも公衆便所の設置を望む。

A(中西議員)公衆便所を設置するには、個人の土地では不可能であり、また設置するには、付近への臭気の問題もあり近所の民家等の同意をとるうえで大変困難性がある。以前に移動式トイレを浜野路地区の海水浴場に設置したが、周辺の住民から撤去の要請があり、現在由良神社境内に夏祭りの剣道大会等に使用する名目で設置している。これからは色々な苦情・要望が出て来るので、付近住民との同意を取り付けることが困難な状況であるのが現状である。

Q 自治会の法人化(地縁団体《地縁による団体》)については、法人化のための援助の方法や、冊子等が配布されているが、自治会を活性化するには、法人化が必要であると考える。浜野

路でも自治会の所有地を二、三名の個人名義で管理しているが、これを自治会名義にしなければ今後問題が発生することが考えられる。宮津市や他の地区での自治会法人化の動きについて知りたい。

A(中西議員) 脇自治会や他の自治会でも、土地の名義は個人のものが多く、色々問題が出ている。宮津市では一〇〇自治会があるが法人化されている自治会はないようである。法人化するには色々事務的な問題で難しく、近隣では法人化した自治会はないようである。脇自治会で法人化を研究しているようだが、法人化については、多くの経費と専門的知識がないと困難である。

Q もみじの里公園ができたが、高齢化社会が進む時代に、公園の中に是非とも社会福祉施設を考えてほしい。下水道処理施設は由良地区民は余り真剣に考えていないのではないか、自然環

境と歴史的にも恵まれた観光地でもあり、また将来の子供たちのためにも、是非とも生活環境の向上を図る面からも前向きに下水道施設の整備を考えていってもらいたい。

又、京都縦貫道路(或は鉄道電化・高速化等)が完成すると、車も人の流れも変わってくるとおもわれるので、由良地区への観光面での影響を考えていかなければならない。

A(中西議員) 二億円を超えて整備した公園をあのまま何もしないで置くことは、大変無駄でないかと考えている。由良地区の人々も同じように考えているのではないか。もつと色々な面で利用する方向で考えていかなければ、観光客のトイレ休憩の利便性だけに利用されるだけであり、市民が有効的に利用される方向で考えていかなければいけないのではないか。高齢者の憩い場となるような施設等の設置を考えていかなければなら

い。市の方も補助対象施設を考えている。五年度予算で安寿と厨子王の像を建立するが、福祉施設となると多額の予算を必要とするので、補助対象事業となる施設を検討してもらおうよう要望をしていきたいと考えている。

A(山下議員) 下水道処理施設の整備は、由良地区の場合、自治会、公民館等が音頭をとっていきながら、上下水道部に、どのような負担や経費を必要とするか概要を示してもらい、具体的な方法なり、考え方を各地区で下水道問題を協議するための叩き台となる資料を作成してもらって、協議を重ねていかなければならない。

由良地区への企業誘致は土地の問題により困難性があり、自然環境を生かした観光施設を育成するには水道の給水能力アップをはかる施設整備が必要となる。保養施設を核とした住宅の整備を図るには二、一〇〇〜二、八〇〇トンの供給量を確保する

水道施設を整備する必要がある。

由良の簡水は能力一日最大一、一〇〇トンであり、夏場日曜祭日に数日一、〇〇〇トン前後の水の使用量となっている。常時は充分な余力があるので施設整備に巨額な経費を投入することは経営上困難性があり、最大供給時に充分対応できるように貯水槽を大きくする方法等の整備を当面とらなければならないし、長期的には、二、八〇〇トン能力の施設確保が必要である。

京都から縦貫自動車道で一時間三〇分、鉄道の電化高速化で一時間四〇分と時間短縮されると、観光客の流れが変わり、入り込み客の減少につながるのではないかと心配があるが、綾部・舞鶴のインターに大きな看板を掲げて丹後の海をアピールし、観光客にアピールする方法を市に要望し、KTRには全て海の見える宮津線をアピールする等色々な方法を考えていかねばならないと思う。

Q 地域作りの一環になると思

うので歩くコースを作りたい。歩くという事は最近大変興味が持たれており、歩くコースに例えば文学的な意味合いを持ったコース(文学の街道)また、伝説めぐりのコースなど老若男女が楽しみながら歩くコース、一例をあげると三島由紀夫の小説「金閣寺」に出てくる場所、その他の説明標識を建てるといような立案を提示したとき由良地区自治会として支援してもらえるものか。

A(中西議員) 大変ユニークな発想であり、自治会としてもできるだけ協力していきたい。百人一首で歌われている由良の戸の歌碑をどこか適当な場所に建て、由良の名所を作らなければならないが、由良の人々が考えていくことが実現に向かっての一步となる。

Q 浜野路で二一の会と言う集まりを昨年七月に発足し、月の奇数日に集まり色々話し合っ

ている。児童数が減少しこのま

までは小学校の存続問題もでてくるのではないか、そのためにはどうしたらよいか等、勉強不足で良い意見・発想が出ないが、これから勉強して考えていきたいと思っている。若い人が定住するために、由良を住み良い環境にしていくにはどうしていけばよいか。

A(中西議員) 小さなグループから大きなグループを作っていく、浜野路の二一会でなく、由良の二一会というように組織を大きくしていき、若い人・婦人層も取り込んでいき、単位自治会だけの問題にとどまらず、由良地区全体の問題として取り上げるように組織の範囲を広げてもらいたい。

Q 丹後由良駅の裏の開発問題について、浜野路の踏切りから国道への道路舗装に関連して、由良駅の三番線を道路として活用し、国民宿舎へ通ずる道路として延長舗装整備すれば駅裏の

開発につながると思う。

A(中西議員) 駅の官舎の跡地は荒地地となっているが、広場を整備するとき同じに官舎跡地も整備してほしいと要望したが、JRの資産は、将来的な事業の展開の為の財産として保有するという方針で、用地の払下げはしてもらえなかった。駅の裏の開発は農地法の関係で制約されていたが、現在では四分六で荒地地となっている。脇の一部を農用地として残すが、あと全部農用地からはずす方向で現在府に申請中である。農用地でないところはこれから市道をつける方向になるのではないか。農用地の問題が解決すればこれから開発されていくと思われる。

Q 駅前道路の舗装と側溝の整備の問題で、桜の木の伐採については、八〇%が賛成二〇%が反対であるとの浜野路地区でのアンケート結果が出たが、この問題は浜野路地区だけの問題でなく由良地区全体の問題である

と言われている。七千万円の予算が昭和六三年の国体に間に合わせるということであったが、桜の木の問題で現状のままになっている。桜の木を残したままでは整備ができるのか、桜の木を切らなければ整備が出来ないのか考え方を聞かせてほしい。

A(中西議員) 由良地区全体の問題として考えていかなければならない。これまでの議論を纏めて考え方を示していかなければならない。土木事務所としては、地区で考え方を纏めてもらわないと先行きしないという考え方である。来年度には整備が出来ないのか出来ないのか結論は言えないが、これから各自治会で結論を纏めていかなければならない。

由良の人達は淡泊で良いと言われているが、公の場では余り発言をしないで、陰で色々人のことを言うという悪い面がある。堂々と発言、発表をし、多数決で決まったことには同調し

ていくということが、由良地区がもっと良くなるということにつながるっていくと考える。

閉会あいさつ

公民館長 小室 哲寛

○本日は自治学級にご参加下さり大変ご熱心にご協議下さいましたことを深く感謝致します。

中西・山下両市会議員さんには、宮津市や由良地区の活性化のため日夜ご奮闘下されておられる状態を如実に聞かせていただき、又本日の自治学級にはご懇切にご指導いただき厚く御礼を申し上げます。

これを機に私達も町づくりの方策を皆で考えて参りたいと存じます。

これにて自治学級を終了させていただきます。

まことに有難うございました。



自治学級に出席して

岡 本 美佐子

雪の降りしきる中を急ぎ、時間には少し遅れてしまいました

が、久しぶりに自治学級に出席させていただきました。

宮津市由良地区の議員さん、地区代表役員の方々、又は一般の方々、婦人会会員の出席にて、いろいろな角度からの意見が取り交され大変勉強させていただきました。

宮津市政問題、京都縦貫自動車道の経過、あるいは私達に一番身近な由良地区の問題、浜の公衆便所、石浦地区に出来上がった「もみじ公園」駅裏にあたる

道路、駅前にある桜の木の問題等、常に私達が関心をもったり、知らない事を出席の多くの方々、質問や意見をのべられ、議員さんや、自治会長さんが、それに対して分かりやすく詳しく

説明されるのです。

これらの質疑応答をお聞きして、私は何も質問する事が出来ませんでした。久しぶりに有意義な半日であったことを感謝しています。

こんな身近な由良地区の話合いが、今後共益々多くの人達の出席のもとで年を追って伸展していくことを期待しながら聞かせていただきました。

この意義ある会合を計画していただいている公民館活動の、今後のますますの発展と飛躍をお祈り致します。



やさしさいっぱい

由良小学校長 飯田 和子

「リン、リン」

二月三日の朝、職員室に電話がかかってきました。由良に住んでおられる独居老人からでした。

「大雪が降って、雪あけをせんなんのに、どうしよう。思っていたら、近所の小学生が、雪かきをしてくれました。うれしくて涙が出てきました。まだずっと遠くまで、道の雪をかいていってくれる子供の後姿に、手を合わせていました。」とのことでした。

電話を受けた私も、とつても心あたたまる思いでした。

当たり前のこととして、自分のできることをする子供。又、それを感謝して下さる大人がいる——。なんとすばらしい由良なんでしょう。

本校は、福祉教育の指定を府と市から受けて三年すぎました。その間に、いろんな取組をして子供達に福祉の心を育ててきました。

特に、子供達の身近に高齢者がたくさんいらっしゃるから、老友会の皆さんのご協力も得て、祖父参観、ふれあいタイムなど、世代を越えた交流を大切にしてきました。

昔なら、子供は地域の方々から日常生活の中で、たくさんのお話を学びました。世代を越えたふれあいを——なんて、わざわざ取組をしなくても、つながりは当たり前のことでした。

それが近年、社会が多様化し個人の生活が中心になり、世の中全体が忙しくなってきました。子供達は、テレビゲームに代表

されるように、一人遊びがめだつてきました。

こんな時代ですから、世代を越えたふれあいは、余計に大切なことになりました。

本年度、ふれあいタイムに参加して下さった方々より、たくさん感想をいただきました。その一部を紹介させていただきます。

☆ 子供の時、ずいぶんカルタ取りをしたのですが、八十歳になって下の句はわかつているのですが、目がどうも……。

学校の時の小さい頃を思い出し、とても懐かしいです。

☆ 紙細工で、年よりを庇いながら細工物を仕上げている孫の思いやりの心根に感激した。

短い人生行路に、こんなに楽しかった事は、あと何回あるだろうか。

☆ 子供の頃やった記憶はありながら、いざ、あやとり・おじゃみを手にすると、なかなか出来ませんでした。やはり

戦争、終戦後に子供時代を送った私には、そういう記憶が強いです。又、こんな機会を持っていただけることを楽しみにしています。

天橋園とみやつ作業所にも行き、ボランティアの仕事させていただき、多くのことを学びました。

天橋園で車椅子みがきをした子供は、お年寄りの人達に「ありがとう」「ありがとう」と言われて、感謝される喜びを体で感じる事ができました。

みやつ作業所では、障害のある人達が、明るく真剣に作業している姿を見て、生きることのすばらしさを学びました。

こうして体得した福祉の心、高齢者や障害者がいて当たり前社会、共に力を合わせて生きぬく社会を作り、困っている人に手をさしのべるのは当たり前という心を、由良の地でも根付かせてほしいと思っています。

由良小学校の同和教育

由良小学校教諭 濱 中 良 子

由良小学校では、「差別を見抜き、差別に立ち向かう児童の育成を目指して」という研究主題のもとに同和問題学習を行っています。

封建的な権力によって作り出された身分差別は、今日においても完全に解消されていないだけでなく、差別はなお新しい形をとりながら、見えにくくなっているだけという現状があります。

同和問題の早急な解決は、国民全体の課題であると言われております。

同和問題の解決に焦点をあてて、同和問題の正しい理解と認識を育てる学習、即ち同和問題学習を、次の時代の担い手である子供達に行っているのです。この学習を二つに分けて行っ

ています。

一つ目は直接学習で、差別の発生と歴史を正しく知り、差別を許さない態度を養います。これは、六年生の社会科と一二月

の人権旬間での学習が中心です。二つ目は基盤学習といい、前述の直接学習の理解につながる力を養うことを、ねらいとしています。この基盤学習で育てる力として、

- ① 感性（相手の立場に立つ）
- ② 洞察力（おかしいよ）
- ③ 解決する力（どうする）

感性とは、例えば三年生で学習する「モチモチの木」という物語でいえば、主人公の豆太を通して、人間の本質に迫ることが出来ると考えました。いつもは臆病な豆太が、じっ様の苦し

みを前にして、じっ様のことを思って、一生懸命、力をふりしぼって、医者様を町まで呼びに行きます。豆太はいつもは弱虫でも、いざとなったら弱虫ではない姿を見せる、つまり、人間は強さも弱さももちながら生きていて、そういう人間のふくらみに気づかせたいというねらいをもって、学習を進めていきました。感性を育てるということは、人間をみる目を育てることもあります。

洞察力とは、物事の本質を見抜く力です。いやなあだ名や、いやなことを言われているのを見ても、何もしない児童が少なくありません。これは、おかしいよ、正しくないよと、差別の本質を見抜く力を育てるのです。解決する力とは、こうして見抜いた事柄を、頭の中で理解した、気づいたと言うだけでなく、それを自分の行動にまでつなぐ力のことです。自分は何をすべきか考えるだけでなく、実際に

行動できることが大切だと思っております。それも、人と力を合わせる事が出来る、まわりのことがきちんと見える子供を育てたいと願っています。

これらの学習は、教育全般を通して行うのですが、特に、国語・道徳・社会・生活（一、二年生が学習する教科）、学級活動で行っています。

『学習した子供の作文』

（前略）今も残っている就職結婚差別、私は我慢なりません。人間はみな平等です。（略）

私は一人の人間として、人権についてもっともって考えて、小さな事からでもなくしていいうと思えます。まず、このクラスの人権についての問題をなくしたいこうと思えます。

こんなにすばらしい子供達が育っています。

このような学習は、家庭での協力なしには、成果として実を結びません。学習してきたことを家庭でも話題にしてください。

成人式に参加して

濱田 宏 信

月十五日、僕の人生で一生忘れる事のない成人の日の朝を迎えた。

特に僕は、成人式実行委員という大役を由良地区代表として選んで頂き、三ヶ月程前から成人式の準備を実行委員十数名と一緒に頑張って参りました。

実行委員みんなで考案した式の最後でのファッションショーという名のレクリエーションを成功させたい気持ちでいっぱいだった。

成人式は、中学、高校以来会っていない親友達と久しぶりに会える場、いうならば宮津市の同窓会とも言えると思う。

式の方では、レクリエーションもユーモアあふれ、みんなに楽しんでもらう事ができた。僕達実行委員がこれまでに何度と

なく集まり案を出し合って苦勞してきた成果が、素晴らしい式となって終わった事をとても嬉しく思いました。

これまでの僕は、両親にいろいろと迷惑をかけ、一つの事をするにも責任感が感じられなかった。二〇歳になったといっても一社会人としてまだ人生のスタートにすぎず、これからが本当の自分にとって第二の旅立ちだと思う。

二〇歳を迎えた今、両親や先輩の意見を参考にし、一つの道からはずれることなく成人らしく立派に人生を歩んでいく僕の姿を見ていてほしい。



成人式に参加して

上田 このみ

高校を卒業してから、あっという間に二年去り、成人式を迎えてしまった。大人の始まりである。が、困ったことに、本人にはその自覚が全くない。

自覚がないまま成人式の実行委員という私にはもったいない様な役目をいただき、何とか式が終わってみると、何だか拍子抜けして、思わず、そばに居た友人にこうつぶやいてしまった。「成人式って……これだけ？」

すると、友人はこう言った。「ま、こんなもんでしょ」

そう。式とはひとつのけじめをつけるための形式的なもの。それで、今までの自分がコロッといきなり変わる訳がないのだ。要は、自分自身の心の持ち方なのである。と、おそまきながら気付いた私が変わろうと努力し

ているかというところ、これがまた相変わらずの毎日。だが私は、今のままで充分だと思っっている。式が終わった後、中学校時代の同窓会があった。行ってみると、みんな大人っぽくなっていて、今のままでいいと思っただけなのに、何かひきめを感じていたように思う。でもやっぱり、努力はしようとする。そういう気が起こらないのである。困ったものだ。(すでに他人事)

今回、これを書かせていただいている中で思った事が、要するに成人式は、無事に二〇歳を迎えられた人に対するささやかなお祝いのイベントだということ。そして、私はその記念すべきイベントに、少しでもかかわらせていただいたことに感謝します。有難う御座いました。

文学の見える風景(三)

薄田泣董「おもいで」の詩

中西夏江

京都宮津間乗合馬車道竣工

(現在の奈具海岸道路)は、明

治二年(一八八八年)とも、

また明治二四年(一八九一年)

頃とも記されています。当時の

土木の資料は、府の総合資料館

へ行っていろいろと、その委細

を知ることには出来ませんが、大

変な工事であったらうと思ひ

ます。

詩人薄田泣董が、宮津から由

良へと乗合馬車にゆられて当時

の奈具海岸道路を旅した詩があ

ります。

おもひで

春の夜はしずかに更けぬ

はゆま路の並木のけぶり

箱馬車は轍をどりて

宮津より由良へ急ぎぬ

朧夜の窓のあかりに

京むすめ 難波商人

朽尼や切戸まうでや

人の世の旅の道ずれ

物がたり吹眩まじりに

眠り目のとろむとすれば

誰が子にか 後のかたに

をりからの追分ぶしや

清らなる聲ひとしきり

谿あひのささら水なみ

咽び音に響きわたれば

乗合はなみだこぼれぬ

月落ちて闇の夜ぶかに

箱馬車は由良へとときぬ

客人は車をおりて
西東みちに別れぬ

その後やいく春経けむ
お方は夢にうつくに

思ひてはえこそ忘れぬ
由良の夜の追わけ上手

その子今何処にあらむ
思ひ出の清きかたみや

人々の心に生きて
とことばに姿ぞわかき

五七調のやさしい調べのこの
詩は、薄田泣董が二七才の頃の

作品とされているようです。

泣董は、岡山県生れ(一八七

七~一九四五年)で、象徴派詩

人として、明治文学史上、島崎

藤村・土井晩翠につき、薄田泣

董・蒲原有明時代を作りました。

彼は、王朝趣味や古典への憧憬

によって、古語や雅語を駆使し、

古典的詩風を樹立したといわれ

ています。

詩集「暮笛集」「ゆく春」

「二五絃」「白羊宮」など次々

と出しましたが、「おもひで」

の詩は「二五絃」中のもので、

青年詩人の豊かな感性が息づい

ています。

この「おもひで」には、日常

の話し言葉や書き言葉にあまり

使わないような言葉が出てしま

すので少し拾ってみたいと思ひ

ます。こうした言葉選びは、泣

董の美学によるものでしょう。

はゆま路 駅路(「はゆま」

の通る路。「はゆま」 駅・

駅馬(早馬の約) 官用に宿

駅でつぎたてる馬。※この

詩では、箱馬車の通る路)

轍(ここでは、車の輪)

朽尼(年老いた尼)

切戸まうで(天橋山智恩寺は

通稱「切戸文殊堂」で、昔

から、切戸の文殊さん)と

して親しまれて来た。切戸

(又は九世渡)の文殊は、

文殊菩薩の霊場であったか

ら参詣者も多かった)

追分ぶし（民謡。もと中仙道と北国街道との分岐点である信濃追分の宿駅で唄った馬子唄。またその各地に伝わったものの総稱。悲哀を帯び、声を長く引いて唄うものが典型）

春のおぼろ夜を走る箱馬車には、おぼろ月の光に照らされて車内に乗り合わせた人達の顔が見えてきます。美しい京娘、遅ましい難波商人、年老いた尼さん、そして切戸の文殊さん参りの人達等——。旅の道ずれはさまざまな人生を垣間見せてくれるようです。

これらの人達がそれぞれ話をしている中に、眠気がさし、あくびなども出てうつらうつらとする頃、後の席から追分節がきこえてきます。

凜凜とひびくその声の清らかさ、張りのある声、まさに名調子なのです。それは、力ある生、男の生きゆく道の内面にひそむ

鬩りや揺らぎを微妙に醸しながら、来し方行く末を近くまた遠く無量の想いに包みこんでしまふのです。

水墨画のようなモノクロームの世界、春のおぼろ夜に青年の感受性は寂しく強く自在にかがやいていきます。

由良の夜の追わけ節に深い共感を覚え、限りない愛惜のひととき、「乗合はなみだこぼれぬ」の詩句となったのでしよう。

この詩の主題は、「由良の夜の追わけ」で、それゆえに、「思ひ出の清きかたみ」として、ながく豊かに詩情を点し続けているようです。

一詩人のいのちの流れが魅力を放つ「おもひで」の詩です。

この追分節の名手は、北前船の乗員で本場仕込みの美声の持ち主ではなかったのでしょうか。

群青の澄明な海に沿う奈具海岸道路に一篇の詩が残されたという事は、移りゆく歴史の中、変りゆく郷土の中であって、時に

眩しいような気さえて来ます。

先年、丹海KK社長として赴任してこられたS氏（今は転勤されました）が、「由良へ行けば、薄田泣菫の『おもひで』の詩にあえるということを楽しみにして来ました」と一節を諦んじて感慨深く頷いていらっしやいました。

詩歌はときに夜想曲のような静かさを、また新しい水晶時計のようなすずやかさを私達に与えてくれます。

奈具海岸道路が開通するまでは、七曲八峠といわれた古い峠道が由良から栗田の脇に通じていました。

平安時代の情熱の女流歌人泉式部が、京都へ帰る夫の藤原保昌（丹後守）を送って、この七曲八峠を越え由良の港まで来て、

わが袖は涙の浦にあさりせし海女のたもとに劣りやはすると詠んだ——という一話等も伝

えられています。

歳月を経て古い時代から新しい今の時代、きびしい現実の中で、自然はその生命を重ね、水は澄み、木々は緑を萌しながらまた光ふる春が来しました。由良風景とのかかわりの上に歌われた「おもひで」の詩は、青春のたまゆらの歎びと哀しみを私達に共有させてくれるようです。

人は、忘れ難いかすかな時間を伴うことで心うるおい、殊に春のおぼろ夜などは、優しい視線をそそいでいるようにも思われます。



由良郷土館を見学して

由良小学校三年担任

永田 大樹

由良小学校一年担任

河田 治子

土曜日のお茶の会 (三月二日)

四年 酒 本 真理子

由良に赴任して早や一年が経過しようとしています。この一年、子ども達と共に由良の各地を歩きました。今回は、三年生の社会科、市の人びとのくらしとうつりかわりの中で、人間の生き方に触れる歴史体験学習を重視させたいと考え、中西さんにお世話になり見学させて頂きました。

私もそうですが、子ども達は好奇心おう盛で、農作業や家庭生活で使用した道具などに目を輝かせていました。「これなに。」「どうやって使ったのかな。」との声が聞かれ、特にガラスケースに入れられた塩桶の塩の結晶には視線が集まりました。子供達は、昔の由良の人々の生活を、自分達の身近なものとして考えることができました。

「キーカラカラ、キークルクル。」小学一年国語に、たぬきの糸車というお話が出ています。いたずらだぬきが、おかみさんに命を助けられ、代わって糸をつむぎ恩返しをするという、動物と人間のえも言われぬ温かい心の通い合いを味わえる作品です。

この糸車を体験させたくて探しておりましたところ、郷土館に保存しておられ、中西俊夫さん中西夏江さんにお世話になり見学させていただきました。「おかみさんになったみたいや。」と言いつつ一人ずつ糸車を回させてもらい、興味深く印象的な学習となりました。子供達の学力の土台となる豊かな心育てに、家庭地域のご協力をいっもありがたく思っております。今後共よろしくお願い致します。

「では、お姉さん達におかしをもつてきてもらいましょう。」と、着物を着た小室さんが言われました。

そのおまんじゅうは、ピンク色で、さとうみじやうなのが上にはばらばらかけてありました。

おかしの食べ方を、教えてもらいました。

「まず、半分に切ります。そして、半分に切ったのを、また半分にします。つまようじで、ブスツとさすより、横の方から、ちよつとだけさして、口にはこびます」。わたしは、4分の1のサイズやなと思いましたが、去年も来たけど、おかしは切りにくくなって、おもちみたいなのが飛び出しました。

今年は切れるかなと、がんばりましたが、ぐちゃぐちゃになっ

てしまいました。でも、中に入りみたいなのが入って、おいしかったです。食べ終わると、つまようじを紙につつんでおきました。

次は、お茶です。足がしびれてきて、いたかったです。お茶をおかされて、おじぎをしました。お姉さんが、のみ方を教えてくれました。初めに左側において「おさきです。」とか「どうぞ。」とか言って、元にもどして、上にあげて、かんしゃをしてみます。むずかしいなあと思いましたが。そのお茶は、あわみみたいなのがあって、きみどりより、ちよつとこい位の色です。そのあと、話を聞いて帰りました。外は雨がふっていました。お茶は、にがかったけど、いい勉強になりました。

一年を振り返って

婦人会 中西巴

国会の揺れ動き、不況、長雨、冷夏による米不足、輸入米など、社会の急速な変化への対応が求められる中、婦人会のさまざまな学習活動、地域、公民館行事を終えようとしているこんにち、

三位という、好成绩をあげていただき、スポーツ好きな私にはほんとに恵まれた年でした。学習面では、公民館活動の中

で同和研修会、自治学級、生涯学習。中でも自治学級では、二名の議員さんを迎えての話し合い、市政の中の由良地区の身近な問題、いろいろな考え、意見、議員さんの答弁、婦人会では学べない学習であったと思います。

市の婦人の集いでは、今や世界的になっていく、ゴミ問題、宮津市でも、何年、何十年にもなれば捨て場がなくなるといわれています。一人一人が、日常生活の中での工夫、ゴミをいかに減らすべきかを考え、昔の人が勿体無い勿体無いといわれませんが、小さな勿体無いが大きな

本年度の婦人会活動を振り返ってみますと、六月の谷川マリさんを迎えての、宮津駅伝、年りんピック、福祉ふれあいフェスタ、農業祭、役員さんにお世話になり奮闘した何百もの弁当作り、宮津スポーツFVには優勝、市の婦人バレーボールでは、ソフトバレー優勝、皮バレーでは

勿体無いに変わるのではないかと思います。お互い仕事を持ち、家庭の事など、いろいろとありますが、人と人とのふれ合いの中で、共に学び、自分の心の豊かさを感

じ、この積み重ねが大切なのではないかと、一年間の活動の中で教えられました。忙しいおもいはしましたが、私にとっては実のある一年でした。本当にありがとうございました。

生涯学習・土曜日の活用

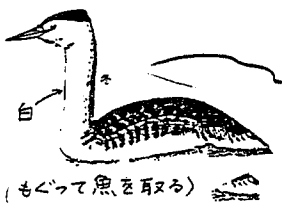
野鳥観察に行つて (三月五日)

一年 わたなべ いくえ
みんな、きれいでした。コハクチョウは、きれいにみえにくかったけど、ぼうえんきょうみたいなのでみたら、みえました。コハクチョウが、くびをまるめていました。さむいのだね。マフラーがあつたら、いいのね。いろいろなとりをみられて、よかったです。

は、カンムリカイツブリです。あたまの上に、大きなカンムリをかぶっているみたいでした。ぼくの見たコハクチョウは、羽の手入れをしていました。コハクチョウの羽は、かた方が五〇センチくらいに見えました。

三年 大森 きよまさ

鳥のかんさつにいつて、いろんな鳥を見ました。ぼくが見たやつで一番かつこよかったやつ



(もぐって魚を取る)

懐旧

玉垣 まき



半世紀前の我が家を揺るがせり夫出征の報せ来りて

ありし日の夫の軍事便十二通一銭五厘のはがき黄ばみて

由良浜より幾万海里厳寒の地に果てし亡夫を今も慕えり

去年よりもえんどうの花多く咲く蝶舞うごとくつぼみ続きて

みかん畑に施肥せるせつなうぐいすの一声きこえ思わず和む

雨上り由良川河口波高くしぶきを浴びてかもめ飛び交う

朝夕にみ霊まつれり亡き夫の征きませし日の遺影とどめて

玉垣さんは、老人大学「短歌教室」を受講されて一〇年、その結晶二六五首を収めて心の透った歌集「懐旧」を出版されました。四三才で応召されたご主人は戦死、以来今日までの感慨が一首一首に深くこめられています。

なお、この歌集には右のように爽やかな自筆のカットがいくつか添えられています。

生涯学習講演会に参加して

山下 欣子

二月二七日生涯学習講演会として舞鶴市教委の波多野恵子先生の「女性の生き方」と題する講演会に参加致しました。先生の大変立派なお話を大変楽しく聞かせていただき心に感ずることの多い一日でした。

話をききながら今の私の生活を振り返ってみますと嬉しかったことや、恥ずかしいようなことが色々と思いつかんで来ました。しなければいけない事の中で、一日、一日の用事をこなして、というか、その日のうちにやっておかないという気持で、百姓をしています。というのは百姓はお天気次第で、つい又明日にという事が出来るからです。先生の話の中で自分で楽しみを見つけないがら頑張る。ある一つの事を目的をもってつき進む

中で皆んなで耐え苦しんで考えて成功する喜びを目ざして生きているという話がありました。昔なつかしい、大和なでしこ、という言葉が聞きました。私の性格からすると、本当にあこがれの言葉に聞こえます。若い頃、あんなしとやかに、人の心を思いやり、本当になでしこのように可れんな気持で生活がしたいと思いました。

でも現実はどうでしょう。忙しい忙しの連発で家の中の事はほったらかしで、毎日を送っています。私はもう少し心にゆとりをもって、歌もうたい、楽しく、生活をしようと反省をした次第です。

最後の合唱は非常に楽しくこちよい感じが残りました。知っている歌をうたいながら、帰途

についた私でした。明日から、いま以上に頑張つて田舎のおばちゃんではりきりたいと思いま

す。ほんとうに有難うございました。

まちづくり地域づくり

座談会を通じて

港分館長 山田 常治

この度公民館主催による地区座談会を、分館長さんを主軸座長に自治会ごとに開催させて頂きました。このたびの趣旨は、公民館が日頃の住民の皆様の思いの考えを忌憚なく述べて戴き、地域の発展と活性化を図るのの目的とするものです。その節は地区民の方々にはなにかと公私とも多忙な折、繰り合わせご参集下さいまして有り難うございました。主催者分館側より御礼申し上げます。

意見を拝聴することが出来ました。日常生活に身近な問題、例えば、冠婚葬祭の簡素化の件、下水道浄化槽設備の要望、地域環境整備の願い、多種多様の御意見を吸収させて頂きました。巡回しましたなかで、出席者の多数の地区、又少ない地区或は年代のちがいが、婦人のたち場、高齢者のたち場で様々な発想意見を聞きました。住民の願いは共通して、地区地域が浄化され、環境が整備美化され、故郷に後継者が活力と希望を抱き定住できる、由良地区創成を希っているのが実感として受けとめまし

た。なにかと若い世代が地域ばなれの風潮の現代社会のなかで、郷里に若者がメリットを感じ求めて、ユーターンできる地域環境づくりが若者後継者を育て、

町づくり地域づくりに、つながるのではないでしょう。我が郷里由良地区が、活性化につながることを願ってやみません。

グランドゴルフ大会に参加して

川崎 直

昨年の秋「四部対抗試合があるのので参加してくれないか」と云われ、パターゴルフ感覚で参加したのが初めてのグランドゴルフとの出会いでした。参加者の中にも初めての人が多く四部対抗である事を忘れ順位など関係なく楽しみ、初めてにしてはまあまあスコアだなと自己満足して終わりました。

シヨンの中、小学生チーム、老人会チーム、婦人会チーム、愛好会チーム等、二〇チーム以上が参加して、グランド狭しと熱戦が繰り広げられました。結果は六位入賞でしたが、練習もせず参加してチームの皆さんに迷惑をかけ、申し訳なく思っています。

二回目は、昨年の一二月三日(日)宮津市の大会が宮津市体育館横のグランドで行われ、由良チームの一員として参加しました。雨が時々降る悪コンディ

ション、団体戦共に楽しめる。特に団体戦は、個人プレーでありながらチームとしての成績がかかっているので気を抜く事が出来ず、チームワークが必要です。又子

供から高齢者まで楽しめ、足を使い、手を使い、目を使い、頭を使い、楽しみながら体力づくりが出来るスポーツです。大会に参加すれば、他地域の人との出会いもあり楽しみも増えます。

由良公民館でも、フィットネススポーツとしてグラウンドゴルフも実施しております。宮津市の大会は毎年行われている様です。興味の有る方、グラウンドゴルフに挑戦してみませんか。

準決勝にも勝て、決勝。一番よく練習していた相手、ここまできたら勝ちたい。千賀ちゃんだ。スマッシュが早い。ぜったいに高く球を上げてはいけない。

そしたらいつのまにか勝っていた。足も手もフラフラだった。今、家になにげなくあるカップ。このカップには、このような、私の不安、感動、努力がいっぱいつまっています。

卓球大会

由良小学校 山下 結

卓球大会

浜野 悟

卓球大会があったのは、一月二八日だった。

去年は優勝できたが、はつきりいって、今回は、優勝カップを手に行けるかどうかは、不安だった。

なぜなら、今回は由良小からだけでなく、吉津小、宮津小からも選手が出ていた。

対戦したことのある人となら、たとえ、どんなに強い人がいても、その人の弱点、得意な点がすべて分かっているからである。したがって、どうすればいいの

かが、分かっているからである。私は昨年度優勝ということでシードされていた。

一回戦は吉津小の金下さんという人だった。金下さんの一回戦をずっとにらんでいたが、かなり強そうな相手だった。

おちついてすれば勝てる、と思いついてすれば勝てる、といた。スマッシュも全く入らない。卓球をしていて、こんな気持は初めてだった。とてもこわかったが、相手のミスで点をかせぎ、どうにか勝てた。

一月二八日、宮津市の卓球大会がありました。この卓球大会に出る僕たちは今まで学校で練習したりしていました。

卓球大会の当日になりました。その日の朝、卓球大会に出る大人も、子どもも、由良の里センターに一回集まって車で行きました。ぼくは、卓球大会に出るのは初めてだったので、朝からきんちようしていました。

由良は団体の子ども男子は五年か六年ぐらい続けて優勝しているそうなので、今年も優勝

して帰ろうと思いつながら行きました。

やっと、市民体育館へ着きました。さっそく入りました。ぼくは市民体育館の中へは、はじめて入りました。ほとんど人が来ていなくて暗い中で練習をしました。暗いので球が見にくかったです。

開会式がありました。おわるよとさっそく団体の試合をはじめました。ぼくは三番目に試合に出るのでした。この勝負は二点を二セット取った方の勝で一

人の試合に時間がかかりました。ぼくたちをあわせて三チームしかでていないのではじめから三位以上は決まっています。それでも、二チームに勝って優勝しました。

そして次は個人戦でした。強

い人がおるかなと思いましたが。ぼくは由良の人には当たらないで決勝まで進んでいきました。決勝は佑希君とできんちようしました。スマッシュをけつこうきめられたけど、勝って優勝しました。

宮津市民卓球大会に参加して

川 崎 清

昨年一月二八日、宮津市民卓球大会に初めて由良チームの一員として参加しました。

メンバーは藤井忠、岸田博司、中西一義、浜野正夫、阪下好美、岸田弥生さん、私を含め六人で

す。文化祭当日、急遽メンバーを集め、初めて顔を合わす人もありました。

結果は団体戦は三位、個人戦ではA級優勝が私、準優勝が藤井さん又C級で中西さんが準優

勝で全体として好成績を挙げる事ができました。

団体戦は四S・一Wで男女、年令、実力に関係なく対戦します。対戦相手によって勝敗にかかわるので、監督も大変だったと思います。

後日対戦した相手から聞いた話ですが「藤井さんに当て馬を当てシメシメと思っていたら、川崎さんと当たりえらい目にあつた」とのことです。その試合は三一二で勝っていました。

決勝トーナメントでは滝馬Aチームと対戦し惜しくも二一三で敗れました。私は幸い相手がB-Cクラスの人との対戦でしたので、できるだけラリーをするようにし、楽しみながら試合することができました。

次回は事前にメンバーの人達と練習をして臨めば優勝を狙えると思います。

個人戦では、A級の人全員知っているメンバーなので、反対ゾーンで決勝に勝ち上がるのは藤井さんと思っていました。案の上決勝で当たり、同士打ちでやりにくい面がありました。若さと体力で勝つことができました。

C級での決勝で、中西さんと対戦した相手は、足が不自由で車椅子に乗った方でした。一応中西さんの応援をしていましたが、相手の方も応援してしまいました(ゴメンナサイ)結局大接戦の末相手の方が勝ち大きな拍手があり、大変感動しました。

由良に住むようになり一年余りたちましたが、まだ顔と名前が一致しません。こういった機会を大切にし由良の人達との交流を大切にして行きたいと思っています。

今練習は火曜日、宮津市民体育館で九時から二時まで、又、エネ研で昼休み行なっています。由良では、月曜日二〇時～二二時三〇分頃まで、小学校の体育館で坂下さんから数人が練習されています。

練習に行ったことのあるのですが、体育館が大変暗いため、小さい球が大変見にくく困りました。もっと明るくして戴けるようお願いしたいと思います。

最後に、卓球は若者男女問わず体力に依り、気軽にできるスポーツです。(その上用具等費用も安くオススメのスポーツです。)しかしながら、見た目以上に体力(持久力・敏捷性・脚力等)又精神力(決断・沈着・忍耐)を必要とします。

最初は遊びでやっていました
が次第に面白くなり、本格的に
やり二〇年余り、おかげで年令
より若く？ みられ、まだまだ

頑張るぞと思っているこの頃で
す。
「いやー！ 卓球って本当にい
いものですね」

宮津市婦人バレーボール大会

ソフトバレーの部に参加して

松 林 きみ代

昨年、一月一四日、宮津市
婦人バレーボール大会が宮津市
体育館にて開催されました。

私はソフトバレーの部で由良
Bチームの一人として初めて参
加させて頂きました。

ソフトバレーはPTAのレク
リエーションで二度ほどしただ
けで試合に出るのは初めてでし
た。皮バレーに比べればボール
も大きくやわらかいし、ちょん
と当てれば飛ぶのですが、その
やわらかさがくせもので、当た
りどころか悪いとんでもない
ところに飛んでいきます。四人

で守ることもあって、練習の時
もコート狭しとあちこちに動き
回りかなりハードなものを感じ
ていました。

試合が始まる前は、やはり緊
張していましたが、始まればそ
れどころではなく、みんな無我
夢中でやっていました。

初めの二試合は、休む間もな
く続けてだったので、一月と
はいえ、汗びっしょりになり息
切れする感じでした。

ソフトバレーは、参加チーム
が多く四ゾーンに分かれており、
それぞれの優勝チームが決勝に

いくことになっていました。我
が由良Bチームは、運よく、ゾー
ン優勝し、午後からは決勝トー
ナメントに進むことになりました
た。どのチームも「どんぐりの
背くらべ」でそんなに大差はな
く、ほとんどの試合がフルセッ
トでした。

決勝戦では、昨年の優勝チー
ムの栗田とでした。由良の他の
チームの方から「前衛に背が高
い人がくると打ち込まれるで気
をつけなよ。」と聞いていたに
もかかわらず、一セットめは、
その人に打たれてとられてしま
いました。

二セットめは奮起して、「あ
の背の高い人が後衛の時に点を
入れよう。」と作戦を練り、私
たちがとることができました。

三セットめは、とったりとら
れたり、とうとうジュースに
なってしまうました。応援の声
にも力が入っています。この調
子でいくと「もしかしたら……。」
と私はかすかな期待を持ちまし

た。「あと一点、あと一点」最
後の一点が入り、優勝が決まっ
た時は、飛び上がって喜びまし
た。朝からの試合の疲れがいっ
ぺんに吹き飛んだように思えま
した。

この日は家事や子育ても、
時忘れ、楽しくいい汗をかきこ
とができました。その上、優勝
という大きなおみやげを持って
帰ることができ、本当によかつ
たです。

これも家族や主人の協力があつ
てのことと思います。

また、婦人会の役員さん方に
は、色々とお世話になり、あり
がとうございました。



四部対抗バレーボール大会

由利 昭 弘

今年も冬の恒例行事である四部対抗バレーボールが二月に行われました。ここ数年私も微力ながら、毎回参加させていた

してありますが、試合会場は外の厳しい寒さにもかかわらず熱気であふれ、心地よい緊張感の中で試合ができることを楽しみの一つとしています。

冬場は特に、身体を動かすことがおっくうになり運動不足になりがちですが、四部対抗ということもあり、プレーにも声援にも力が入りストレス解消、運動不足解消の恰好の場となっています。また普段由良の方でも顔を合わす機会が少ないので、この機会に少しでも多くの方と親睦が図ればと積極的に参加しています。そして、観戦中の雑談もまた楽しく、年齢を問わ

ず意気投合して騒ぐのも楽しみの一つです。

さてバレーボールの結果ですが、今回宮本チームにおいては男子が久しぶりの優勝を飾り、また、女子は健闘にもかかわらず、三位という結果でしたが、精一杯力を出しきっていい汗が流せ、大変充実した気分を味わうことができました。試合終了後は祝賀会を開き、早速優勝カップを新築したばかりの真新しい公民館に飾ることができ、縁起のよい年明けに花を添えることができました。

最後にになりましたが、大会運営にあたり、お世話いただいた役員の方々に心から御礼申し上げます。今後四部対抗バレーボールが盛大に行われることを心からお祈り申し上げます。

四部対抗バレーボール大会

濱 野 純 子

今日は、年に一度の支部対抗のバレーボール大会です。地区のみなさんがジャージ姿で、体育館に勢揃いです。準備体操もしっかりと行ない、さあ、いよいよ試合開始です。我がチームの男性陣の活躍についていっい応援の声も大きくなり、力が入ってきます。ファインプレーがとび出すと、「やったー。」と思わず声援し、ミスをすれば、容赦なくやじがとび出します。言いたい放題の応援ができるのも、この大会の良さで、楽しみでもあります。

そうこうしているうちに、もう、私達の番です。「今年も優勝を。」の声に、プレッシャーがかかってきます。「昨年みたいに、あがつてしまったら、どうしよう。」と思いつながら、ボ

ジションにつきます。しぎ、試合が始まると、下手ながらも、それなりに落ち着いているので、先程の不安もなくなり、楽しくなってきました。ワン、ツ、スリーのかげ声をかけ合って、ボールを追いかけます。九人の意気を合わせ、得点を重ねます。その結果、優勝でき、嬉しくて、表彰式では、ニコニコ顔になり、話す声も、思わず弾んでしまいました。

この大会に参加させて頂いたお陰で、一日中、バレーボールを楽しむ事ができ、おまけに、優勝の喜びまで味わう事ができて、とても、有意義な日を過ごさせて頂きました。

最後にになりましたが、大会運営にあたり、お世話いただいた役員の方々に心から御礼申し上げます。今後四部対抗バレーボールが盛大に行われることを心からお祈り申し上げます。

囲碁大会について

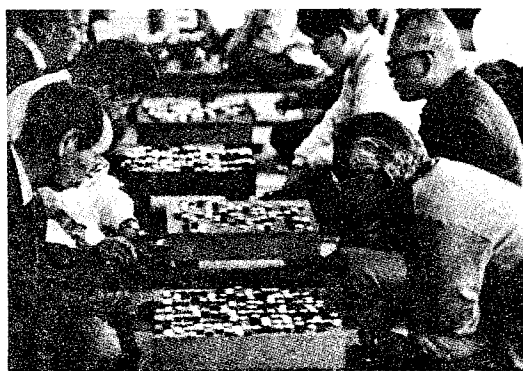
大石 俊 雄

去る二月六日、由良の里センターに於いて、四部対抗囲碁大会が開催されました。

参加者は、各支部五名ずつの予定でしたが、五名揃ったのは、二部のみで、その他の部は集まりが悪く二部対他の部の対抗戦のような形になりましたが、和気あいあいのうちに打ち進んだ結果、一位二部、二位三部、三位一部、四位四部となり終了しました。囲碁は頭の体操にもなり、費用もあまり掛からず、精神修養にもなるかと思えます。とに角最初は取っ付きにくいゲームですが、少し分かれば、これほど面白いゲームは他に無いと思います。

由良囲碁同好会は、去年六月二〇日の宮津市公民館対抗囲碁大会に、又今年一月八日の宮津

農協囲碁大会に於いても優勝するなど、大変力があって、他地区からは恐れられている同好会です。しかし会員の平均年齢も高くなり、会員数も減って来ております。毎月第一第三日曜日には、例会、研究会を開いております。是非御参加下さい。



次に脳についての話をします。脳には右脳と左脳と二つの働きがあります。右脳にインプットされた情報を左脳が整理してそれぞれにラベルを貼り、記憶として収納します。囲碁においては、右脳でイメージした着想

公民館より

◎図書寄贈のお礼

○小西平右衛門氏には以前から図書室を大変ご利用下さっておりましたが、当公民館には新しい本があまり無いことを気にかけて、二、三年前から小説の新作本が出ますと十冊程ずつご寄贈下されおり、今ではその数四一五冊の多きに及んでおります。

公民館として氏のご奇特定なるご厚意に対し、深く感謝し、紙面を借りてお礼申し上げます。

を左脳に送り、理論的分析思考(読み)で確認し、着手の意志決定をして石を打ちます。このように両方の脳を使いますのでボケ防止に役立つのだと思えます。ボケ防止に囲碁を。

◎坂根虎一氏からこの度「私本太平記」全八巻の図書をご寄

贈いただきました。衷心より感謝致しており、紙面を借りてお礼申し上げます。

◎バレーボールサークル

○毎週木曜日午後七時半より、バレーボールサークルを実施しております。

ご希望の方は左記へご連絡下さい。お待ちしております。

TEL (二六)〇八二二

大森 恵子

郷里に於ける澤井市造話題(七)

作 中西孫兵衛(先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

依て森本へ小室の子供を迎えしめ小室家と彼等との関係連鎖を造り拙者も亦祖家に重きを置くは當然なれば伴の妻としては大名家たる家より迎ふる事として藤吉にも今に於て子供なし到底彼等には実子の出来得る見込なければ是亦本家の子供を貰はせたり斯くして血統を継ぎ縁を結び長く親戚の離散ならぬ方法を講じ置き度等は等の事を心配するは今にては差當り拙者の役と思ふ併し相談する人としては熊田の伯父あれども先づ貴所の意見を質したる上の事と考えて邪魔しに來れり乞ふ服臈なく我々の為に一考を煩はせし如何のものにや

あなたの立場として斯くありたきもの事柄に付ては近頃の美譽とも考ふ血縁関係でない我々さえも実に双手を擧げて大賛成を表す併し物事は實際言ふべくして行れ難き事往々あり此件も亦た其類を免かれまじ先づあなたの方は本家に異存なきのみならず御満足にて話は即座にも整ふべし翻て森本の方如何を考ふるに到底出来ない相談かと思ふと言へば

出来ぬが當人等は年少なれば論し訓へなば敢て拒みも得せず服従するやも知れぬど一家内の和合一致にあらざれば縁組は出来るものでなし又小室の方にても一家和談の上ならではあなたの圧制なればとて其命に従ふといふ訳のものにあらず去らば之を整ふべき策としては恐らく無かるべしと述べたり「然らば森本を呼びにやり呉れよ」とありて使をして拙宅に召び寄せしに森本氏も早速に來り沢井君より縷々御話になった森本氏答に「縁組は双方當人の意思を第一として家内一同共に調和せし上ならでは出来ぬなり他事ならば即座に御請すべけれど縁組に至ては今差當りた事にもあらず双方共熟慮を要する後日の案件として昨今は先づ中止し置かれたしとある「此問題は消滅に帰したり藤吉氏は養子どころの騒ぎでなし焦眉の急に迫る家事的心配中だとして取合はざりし

子嬢を引取り同四拾一年五月八日入籍手続をされた
(拾)
明治三七年に亡母の五〇年忌に當り墓参に帰村せられ例により松原寺にて法事供養を勤められた
此年妻おはるさん來村せられたかと思ふ
此年小室屋敷等の周囲劃然たらんを望まれ私に中西六右エ門氏持の地所を譲受懇望の依頼せよとあり二回六右衛門氏方へ訪問依頼の結果幸に快諾せられ双方共代償は私に取計ひを任ずとの事には大に困りました
千六拾六番ノ二ニテ畑耆畝八歩也
同三拾七年一二月七日 登記
濟右の所は小室屋敷午の方位に當り此地と屋敷との間に港の里道あり之を交換して大道を石橋迄通り石橋を南詰より右側即ち西の方へ入る里道あるを修繕して之に依り便利通路する事となりたり此件を私に托され字湊へ

私共右の話を聞き判断を加え返答せしは御話の赴一々御尤千万

思ふ素より當人の承知ならでは

出願の処実地身分の上右の通の條件にて認可せられた否認可權にあらず敢て故障なしとの事にて落着せり折柄屋敷前に利八所有に係る地式坪餘あり小室屋敷とは前側に添へ居是は大道工事の際潰れ地の残物なり小室翁より譲渡の申込は為しありて林八にも承諾はなし居れど畑の下作料五拾錢滞りありとかにて其償なりと翁は言はれて精算せず果は区长まで此処置を林八より願ひ出あり序に処置することにせば双方幸なりと忠告を受け私は其旨を沢井君に通じ處方せり道路変換に付ては明治三十九年に湊へ挨拶として金參拾円を区长中西市右衛殿へ私持参して納めたり

此三拾七年なり昨六年なり鉄道工事の爲め殆んど丹後に居られて其事蹟並に逸話も多き事なるが之を語らんには種々入組たる事情もあり又秘すべき事もある然し秘すべき事といふも公に關する事にあらず単に市造君一身に止まる事にて其話しは茲に省く事とし市藏君対私限りの相談やら君の心事やら或は謀計策略とも云ふべき事柄にと矢張私人の胸中に秘め置き彌陀の浄土へ此儘持ち行く事と致します併し敢て奇抜でない極めて平凡なる一二を語り故人の遺風を偲ぶ材料とせん

當時の本部長たりし川本正路氏曾て君に告て曰く當舞鶴町の公園は旧城跡の庭園を其儘にて一向手も入れず殆んど荒園の有様なれば君の盡力を煩いし公園の体裁に繕はれたしと「沢井君答て曰く大に可なり併し私は由良村の者なり當村には土井今安を始め屈指の資産家数多あり何を苦んで村落の者を頼まんや然し

ながら同郡内といひ且今回の事業には多大の同情を辱ふす依て一人分として千五百圓の見積を以て當町より九人前平均壹万參千五百圓の寄附を募らるべし私も老人前即ち千五百圓は寄附すべく此計金壹万五千元を投じて起工せば公園の体裁は備はるならんと郡長は之を聞きや呆然一語なかりしと其後郡長より私へ話に実は三千円以内にて澤井君一人に依頼する積なりしが壹万五千元とは驚き入る加ふるに當町の資産家平均千五百円づゝ九人の割當の如きは到底絶望に属す云々郡長の荒膽をひしぎし度量大なりと云ふべし

舞鶴の工事着手になりたる頃私より舎弟忠夫を使用せられん事を頼みしに上に「内の厄介物を頼まふかい」と云ひしに「ウンよからう今君は厄介物といふたが世間より見ればあれより寧ろ君が厄介物であらうぞい考へて見給へ君を裸體一貫にし乞食させたらとても喰ふだけは六つヶ

敷ぞ彼は乞食しても敢て難澁はせぬぞとて呵々大笑された私は馬鹿を云ふな真実の話だと申せば真実ならこそ其実の事を云ふにあらずやと申された果して然らば私より彼が価格が上と見られたるならんか

舎弟使用依頼の件段々進行するや君より「一功彼には干渉を許さぬぞ全く己が自由だぞ」と云れたから「承知せり何も云はぬ」と誓ひました偶傍に橋本庄藏氏あり曰く「中西さん今日よりはあなたの内の人ではございませんぞ」



川柳

宮津番傘川柳会

ユーモアの判る人ならついで行く

意地捨てた日からまああるい絵が画ける
大森 美智子

大波を避けると丸い絵が残る

丸腰の似合う老後の青写真
田村 キヌエ

限界が進まぬ時計見て嗤う

転落の帰心を阻む河がある
飯沢 鳴窓

編集後記

○ 成人式を迎えられた二人の方から感想文をいただき、現代の若者らしい端正でさわやかな姿に大変好感を憶えました。新成人となられた由良地区二七人の前途を祝し、皆さんがこの様な気持で清^{すま}しい社会人として活躍されんことを祈っております。

○ 小学校の浜中良子先生から「由良小学校の同和教育」の一文を寄稿いただきました。

由良小学校は「同和教育実践推進校」として平成五、六年度の指定を受け、校長先生を中心に全職員の皆さんが一致して、真摯に創意的に取り組まれていらっしゃる様子を拝見し、敬服致しております。今回その情熱の一端を文面より読みとることが出来て、差別を見抜き差別に立ち向かう児童の育成を目指して一生懸命にご努力されている先生方

に深甚なる敬意を表し、私共地域でも、家庭でも、この学習活動に心からの声援を送り、今後益々協力して参りたいものと存じます。

○ 平成五年度公民館では初の試みとして、まちづくり座談会を分館毎に開催しましたが、その際には、各自治会長様や地区の皆様のご協力をいただき、各会場とも活気溢れる貴重なご意見を数多く承り誠に有難く感謝致しております。

自治学級と相俟って実施しております公民館の座談会の趣旨をよくご理解いただき、話題も生活改善、高齢化社会対策、郷土の伝説・文学の啓蒙策等の多方面よりの問題点を提起していただきました。

公民館ではこれ等を集約し問題毎にとり組むべき方法等を目下検討致しております。今後共何卒よろしくご支援下さる様お願いいたします。
一 小室記

